

【草花の部屋】

ゲンゲ（マメ科ゲンゲ属 *Astragalus sinicus*）

和名：ゲンゲ（紫雲英、翹搖）

別名：レンゲソウ（蓮華草）、レンゲとも呼ぶ。 **英名**：Chinese milk vetch

マメ目 越年草 **原産地**：中国

花言葉：感化、私の幸福、心が和らぐ、あなたは幸福です、
私の苦しみを和らげる、あなたと一緒になら苦痛がやわらぐ

花の色：桃、紫、白



← 写真-1 ゲンゲ

撮影日：2019年04月19日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん

↘ 写真-2 ゲンゲの花

撮影日：2019年04月19日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん



← 写真-3 ゲンゲの葉

撮影日：2019年04月19日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん



大和郡山市郊外の畦道に咲いていました。

湿ったところに生える全体に柔らかな草で、根本で枝分かれし、暖かい地方では水平方向に匍匐して 60～150 cm まで伸びる場合もあるそうです。また、根本から一回り細い匍匐茎を伸ばすこともあるそうです。

葉は 1 回羽状複葉、小葉は円形に近い楕円形、先端は丸いか、少し窪みます。1 枚の葉では基部から先端まで小葉の大きさがあまり変わらず、花茎は葉腋から出てまっすぐに立ち、葉より突き出し、花はその先端に輪生状にひとまとまりにつきます。まれに白色(クリーム色)の株もあるそうです。

日本にはかなり古い時代に渡来したそうで、空気中の窒素を地中に取り込む根粒菌の働きを利用するために、畑にあらかじめ播いておく「緑肥」として栽培されることもありましたが、最近は減少しているそうです。

和名のゲンゲ(紫雲英)は、花が一面に咲いている様子を遠くから見ると、低くたなびく紫の雲のように見えるというところからきているそうです。また、レンゲの由来は、輪になって咲く姿をハスの花に見立てたものだそうです。

ゲンゲの花は、良い「みつ源」になるため蜂蜜の源となる蜜源植物として利用されています。

春の季語。春の若芽をおひたしに、花をてんぷらにするなど食用にできるそうです。民間薬としても利用されることがある(利尿や解熱など)そうです。

ギリシア神話にはこんな話も・・・祭壇に捧げる花を摘みに野に出た仲良し姉妹の妹が、ニンフが変身した蓮華草を、誤って摘んでしまったため、姉のドリュオペが、代わりに蓮華草に変わってしまうという話。「花はみな女神が姿を変えたもの。もう花は摘まないで」と言い残したという。